

すが、迷っている人の背中を押すには弱いと思います。助成額を増額して、多くの人が補聴器を利用したくなるようにしていただきたいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

先ほど市長答弁のほうにもございましたとおり、助成額・助成方法も含めて見直しということを考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

ぜひですね、そこら辺、市民の皆さんが、安心して補聴器を購入できるようにしていただきたいと思います。

以上で私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（古畑浩一君）

松田議員の一般質問が終了いたしました。

昼食時限のため、休憩を取ります。

再開を午後1時といたします。

〈午前11時54分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、関原奈津美議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。〔5番 関原奈津美君登壇〕

○5番（関原奈津美君）

みらい創造クラブの関原奈津美でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問をさせていただきます。

1、糸魚川市の救急医療体制の維持・向上と救急医療体制に不可欠な道路整備の進捗について。

6月23日の市民厚生常任委員会の糸魚川総合病院との委員会協議会において、糸魚川総合病院が赤字を回避するための人件費や病床の削減、黒字化に向けたシミュレーション対策をお聞きし、

大変な努力をされていることを理解しました。

また、８月２４日の地域医療の現状と課題の市民説明会においては、地域医療体制への市民の関心の幅広さと高さをお聞きすることができました。

医師・看護師不足、市内開業医の高齢化、糸魚川市の少子高齢化における人口減少、糸魚川市の地理的条件において、今後、糸魚川市内の医療機関、糸魚川市行政単独で救急医療体制を維持していくことが難しくなることは「自明の理」です。

「市民の生命と財産を守る」という、私たちの大命題を果たすべく、糸魚川市の救急医療体制について、市長のお考えを伺います。

- (1) 糸魚川市内の救急医療体制の現状を伺います。
- (2) 糸魚川市内の救急医療体制の課題を伺います。
- (3) 新潟県が進める地域医療構想に対する市長の考えを伺います。
- (4) 糸魚川市の地理的条件から、救急医療体制に不可欠な道路整備の進捗と今後について伺います。

以上、１回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

関原議員のご質問にお答えいたします。

１点目につきましては、糸魚川総合病院において、市医師会の協力を得て、２４時間３６５日の救急医療体制を構築しております。

２点目につきましては、医師不足や高齢化、それに伴う医師１人当たりの負担の増加などが課題であると捉えております。

３点目につきましては、医療機関の役割分担や連携の仕組みづくりを目的としておりますが、当市の地理的条件を踏まえ、市民が安心して暮らしていけるよう、必要な診療機能を確保することを重視してまいります。

４点目につきましては、緊急車両の通行に支障が生じないように、生活道路である市道整備を計画的に進めるとともに、国や県に対し、道路の整備促進について強く要望してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○５番（関原奈津美君）

それでは、（１）、（２）、（３）の糸魚川市内の救急医療体制の現状と課題、市長のお考えについて、併せて再質問させていただきます。

現在、糸魚川総合病院では、年間、救急車で搬送される台数が約２，０００台と、救急の自主来院者数が約４，０００名を２４時間３６５日で対応されております。人口減少や高齢化が進む糸魚

川市において、病院経営の観点から成り立つ診療科目は限られると考えております。いわゆる不採算診療科目の見直しについて、糸魚川総合病院と協議はされているのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

糸魚川総合病院とは、これまでも数回にわたりまして不採算診療科の部分、何とかそこを解決できないかというところはお話をさせていただいております。今、厚生連が、全体で大きな赤字を出しておりますので、そういったところを解消して、少しでも黒字化に向けていけないかということなんですけども、先ほど来からお話してますとおり、なかなか僻地医療というのは黒字化をすることが困難でございます。ですので、不採算であっても残していかなければいけない医療については、診療科については残していかなければいけないというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

救急で糸魚川総合病院へ搬送された際に、専門医師が不在だったということを市民の方からお聞きました。今後、不採算診療科目の見直しが行われることにより、診療科目が限られ、救急における専門医師も不在と考えられます。この場合の対応について、糸魚川総合病院の方とは協議されていますか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

糸魚川総合病院の医師の数には限りがございますので、その日にたまたま担当、診療科の医師がいらっしゃらなかったり、またはほかの患者さんの対応をされていて手が回らない、その次の患者さんを受け入れることができないという場合には、上越地域を中心とした、連携している病院への搬送という形になるというふうにお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

先日の市民への説明会で、糸魚川総合病院の救急体制において、医師1人当たりの負担は県立中央病院や上越総合病院より多いと聞きました。市民にも、時間内受診や適正受診を呼びかけておられました。糸魚川市は、新潟県の救急医療電話相談の＃（シャープ）7119の対象地域であります。市民へは、どのように周知をされていますか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

ホームページ等で、県のほうとリンクを貼っておりますし、そのほか都度都度、その情報を皆さんにお知らせしてるつもりなんですけども、なかなかまだまだ十分伝わってないというふうに認識しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

病気になって初めてその情報を知るのでは遅過ぎますし、ホームページや広報などの情報にたどり着けない市民の方にも配慮も必要だと考えます。誰一人取り残さないために踏み込んだ周知をお願いいたします。私たち議員も周知に努めたいと思います。

続けて、質問いたします。

糸魚川市全体の救急搬送状況は、1日平均6.1件ということですが、糸魚川総合病院へ救急搬送された患者が3次救急医療機関へ搬送された事例は、年間どれぐらいの割合で推移しているかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

上越市内への搬送というご質問かと思いますが、令和6年、1年間におきまして389件、上越方面のほうへ収容をしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

病気の発症は、いつ起こるか分かりません。病気が発症したときには、昼夜問わず、専門医師の診察が可能な体制づくりが必要ですが、現状では、市民の不安と医師への負担が増すばかりだと考えます。新潟県が進める地域医療構想への積極的な要望と、上越圏域の自治体との連携をさらに深める必要があると考えます。救急医療体制に対する市長のお考えをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

先般、知事との医療体制の要望のときに、先ほども申し上げましたとおり、糸魚川市を主語にして、質問・要望をさせていただきました。とりわけ救急医療搬送体制について、糸魚川市は上越方面はもちろん、富山方面にもやっぱりそういう経路が必要であるということで、県知事のほうから、富山県のほうにも救急医療体制の協定等、ご指導いただきたいという部分で要望しておりますので、いずれにしても県の北側・南側をしっかり視野に入れながら、救急体制は取り組んでいかなければいけないと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

糸魚川市として、県や厚生連、関係自治体との連携を図りながら、糸魚川総合病院へ財政支援をしております。この支援に対する現時点での評価をお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

今年度、緊急支援を県と一緒に実施しておりますが、これは令和7年4月の厚生連の資金ショートを回避するための支援ということでございまして、このまま推移していきますと、令和8年度のどこかで、またそういった状況に陥る可能性がございますので、引き続きそういった財政支援を県と一緒に継続してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

市独自の財政支援は、今後も継続していかれるのか、市長のお考えをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

市独自の支援は、必要だと思います。

ただ、新潟県の県立病院、厚生連への、やっぱり補助、支援の額を、やはり厚生連と、特に糸魚川総合病院に係る部分に振り分けていただかないと、市独自の支援については、やはりこれから継続していく上では非常に厳しいものがあると理解しておりますので、まず、県が県立病院、厚生連

のほうに資金援助、支援をしていただくということを前提に、糸魚川市が独自でどういうふうな支援体制ができるのか、今後の資金の見通しも含めて検討していかなければいけないと思います。必要なものは、やはり当てていかないと、やっぱり住民の生命・財産を守っていききたいというのが、まず本意でありますので、そういう観点で対応させていただきたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

糸魚川市は、長年、医療の存続、医師の確保に向け、新潟県や富山大学に要望活動を続けてまいりました。また、久保田市長におかれましては、先ほどの東野議員の質問に、順天堂大学には高度医療の受皿や総合診療科医の派遣をお願いしていくという答弁がございました。

市長は、10年後の医療分野、特に救急医療についてのバックキャスティングはどのように描かれていますか、また、具体的にお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

救急医療体制については、10年後にかかわらず、明日、明後日の問題がありますので、バックキャスティングとしては、現時点よりも下回らないように、どうやって資金の調達、医師の確保、そういうものを含めて取り組んでいかなければいけないと思います。現時点で、各病院、大学病院等にそういう問合せをした中では厳しいというお返事をいただいておりますけれども、厳しい中にあっても糸魚川市の状況をやっぱり粘り強く伝えながら、明日以降、10年後も変わらない救急医療体制の構築に向けて努力をしてまいりたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

新潟県が進める医療構想と市長が考える、これからの糸魚川の地域医療構想の方向性は同じで、今まで糸魚川市が築いてきた県や富山大学との信頼関係を良好に保てると期待してよいか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

良好な関係は続けなければいけないと思います。

ただ、やっぱり関係というのは相手もありますし、こちらの状況もあります。それをうまく、どういうふうなところで接点をつくってやっていかなきゃいけないか、やっぱり双方の適宜・適所の情報交換が必要だと思っていますので、そういう部分では汗をかいてまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

それでは、（４）救急医療体制に不可欠な糸魚川市の道路整備の進捗と今後について再質問させていただきます。

地域医療構想の取組が進められている中で、中核病院までは50キロと離れている糸魚川市の地理的条件は、救急医療体制のさらなる強化が必須事項だと考えます。すぐに治療を受けなければならぬ病気もございます。この特別な条件下の糸魚川市を押して、県または国へドクターカーの開設を要望するお考えはありますでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

ドクターカーにつきましては、地域医療構想の上越圏域の議論の中で話が出ておりました。ドクターカーの配置というのは、今想定している上越市内に中核病院ができると仮定して、そこにドクターカーを配備して、糸魚川市からの救急搬送に対して、向こうからも医師が乗って、中継点へ向かっていただく。それで、中継点でその医師と合流して、搬送先の病院に患者さんを搬送するという考え方ですので、中核病院のできたときに、そこにそれだけの、救急車に乗れるだけの医師に余裕があるかという問題も大きく関わってまいりますので、その辺が今後の構想の再編の課題だというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

9月2日から3日にかけて降った大雨の影響で、糸魚川、能生インターチェンジを含めた北陸自動車道と国道8号線の上越、名立、小泊から加賀町の全面通行止め、さらには国道8号線早川橋で発生した車両事故がありました。能登半島地震時に続けて、迂回路がない糸魚川市内における道路機能の脆弱性が明らかになりました。緊急搬送時は、道路が正常に機能していることが大前提です。もし、先ほどのドクターカーが導入されても、道路が使えないのであれば話になりません。現状は、迂回路すら断たれてしまう状況です。

昨年度の市議会でも質問がありました、緊急時における糸魚川東バイパス親不知道路、松本糸魚

川連絡道路の果たす役割について、市長はどのようにお考えか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

緊急搬送・輸送については、今ご質問のとおり、非常に交通の、道路がそこで寸断されますと先回のように八方塞がりになるということになります。それについて言えば、現時点で県・国に強く要望しております道路整備については、粘り強く今後も早期の実現に向けて、続けていきたいと思っております。

また、先般、9月の時点での大雨についての交通止めについては、早急に対応しなければいけないということで担当課を通じまして高速道路、また8号線の管理については、緊急車両の運行について、ぜひ特例措置を認めていただきたいという部分で強く要望いたしたところであります。

それともう一つは、北陸整備局の局長さんが、こういう状況を鑑みて、早期の開通を目指してということで連絡を受けました。そういう部分においては、糸魚川市としての対応は迅速に進められたんではないかというふうに感じております。

また、先ほどドクターカーということもありますけども、ドクターヘリの運用について、空路、それについても進めなければいけないと思いますし、その要望については進めていきたい。

もう一つは海路という部分があります。幸い海路は姫川港、また浦本港、能生港という部分からの搬送について、今後どのように対応できるのかも含めて、検討材料の一つとさせてまいりたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

緊急時だけではなく、市内における物流や渋滞解消、洞門の老朽化により、早急な道路整備が望まれて、長い時間経過しております。国や県の財政事情も理解できますが、近年は、特に緊急時の市民の命を守る道路として必要性が増していると考えます。事例を挙げて、県や国へ要望する必要があると考えますが、進捗があればお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

お答えいたします。

東バイパス、親不知道路、あと松本糸魚川連絡道路、それぞれの路線につきましては、糸魚川市の幹線道路として重要な役割を担っておると捉えております。

先ほどもお話ありましたとおり、先週の集中豪雨で交通規制があったりとか、あと、時々事故に

よる交通渋滞とか招いたりすることもありまして、沿線住民の生活環境とか、あと、地域経済活動へ大きな影響を及ぼしているところでございます。地域の発展や振興に必要な不可欠でございますので、救急医療も支える重要な道路であることから、先ほど市長も申し上げたとおり、早期の工事着手に向けて、引き続き国・県に要望のほうを働きかけていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

補足でお答えさせていただきます。

事例を挙げて、道路整備をしているかという質問だったと思います。

先般、私も松本糸魚川連絡道路の際には、事故で交通止めになった事例を挙げさせていただいて、要望させていただいたり、過去に、親不知道路なんですけども、洞門での死亡事故例を示す中で、早急な整備をしてくださいということでお願いをしてきた経過がございます。今回、早川橋の車両火災の事故等もありましたので、そういったものをしっかり国に伝える中で、道路整備に努めていただくよう要望したいと思っておりますが、国土交通省においては、そのことも理解いただいているというふうに思っておりますので、国土交通省と私どもも一緒になって、国のほうに予算獲得をしていくように頑張っていきたいというふうに思っております。

また、先ほど市長のほうから、北陸地方整備局長と連絡取ってというふうに申し上げたと思うんですが、正確に申し上げますと北陸地方整備局の高田河川国道事務所長と緊急連絡を取って、緊急車両が通れるようにやり取りをしたというのは、私も現場におりましたので確認をしておりますので、そのようにご承知おきください。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

工事を進めるには、工事区間のお住まいの住民との合意が必要な事案もあると思います。市内の医療と対話を大切にする久保田市長のトップセールスを発揮していただきたいと期待しますが、いかがでしょうかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

ご質問にお答えします。

まず、そういうご期待があるという部分を重々承知しながら、やっぱりトップセールスに向けて、自分自身、汗をかいてまいっていきたいと思いますし、今回、医療関係については、当然しっかりとターゲットを絞って対応中でございますので、前の答弁にもありましたとおり、10月を目途に、それなりの対応に向けて動きをしていきたいと思っております。

また、必要な道路整備については、いろんな議員の方からも応援もありまして、そういう部分で、担当局長のほうにもやっぱり複数回、面会をさせていただきまして、糸魚川市としての要望についてはお伝えしているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

先日も、市内で独り暮らししている高齢者から、この冬を機会に医療資源の整っている金沢市内の高齢者住宅へ移住するという残念なお話を聞きました。糸魚川市における人口減少の原因が、若者ばかりではないということをお伝えしたいと思います。新潟県が進める地域医療構想の進捗に合わせた国・県との信頼関係の構築と、糸魚川市の緊急医療体制の維持と向上を願ひまして、質問を終わります。

○議長（古畑浩一君）

以上で関原議員の一般質問が終わりました。

関連質問は、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関連質問なしと認めます。

次に、渡辺栄一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。〔4番 渡辺栄一君登壇〕

○4番（渡辺栄一君）

渡辺栄一でございます。

市民の皆様方をはじめ、いろいろな方々のお知恵を賜りながら、稼げるまち、人口増を目指し、活動することで、当市の翠の交流都市、さわやか、すこやか、輝きのまちへ寄与してまいりたいと存じております。よろしくお願いいたします。

発言通告書に基づき、1回目の質問を行います。

1、今夏の異常な高温現象に伴う対策について。

今夏の渇水で、市内の第一次産業にどのような被害が出ているか。また、その対策を併せて伺います。

(1) 全国的に渇水が問題となったが、稲作に関する市内の状況はどうか。

(2) 市は、渇水に対するかんがい用資機材の購入、借上げの補助策を行っているが、その利用度はどの程度か。

(3) 養鶏や牧畜などの事業者の被害状況はどのようなものであるか。

(4) 国や県と連携して、必要な被害救済策を行うことが求められるが、市はどのような施策を考えているか。